

## 第42巻 第3号 予告

### 特集「ストレスと健康（仮題）」

- ストレス小論……………坂部弘之（産業医学振興財団）  
 労働者の疲労とストレス……………斉藤良夫（中央大学文学部心理学研究室）  
 ストレスとライフスタイル……………上畑鉄之丞（国立公衆衛生院）  
 ライフイベント法とストレス度測定……………夏目 試（大阪府立公衆衛生研究所）  
 保健所の精神保健の総合窓口としてのストレス相談……………辻 元宏（滋賀県草津保健所）

### 第42巻 第4号：特集「水道水（仮題）」

### 第43巻 第1号：特集「国際家族年に向けて（仮題）」

## 編 集 後 記

今回は食品の安全性を特集した。今わが国で食をめぐるさまざまな問題が提起されているが、消費者の一番の関心事は量の確保ではなくその安全性の保障である。本特集は食品の安全性の基本的な考え方や微生物学的あるいは化学的な解析のみでなく、行政対応や今日の食品衛生管理の方向、さらに消費者の立場からの発言を加えて概説したつもりである。ここでテーマに取り上げた食品とは流通の末端にある食品に重点をおかざるを得なかったが、もとより食品の安全性とは消費者が手にとれる商品としての食品のみではなく原料の生産現場から製造、流通に到るすべての段階で環境衛生を含めてその考え方が浸透していなければならない問題である。

公衆衛生の中で食品衛生は直接人の死につながりにくく、また最近では実際の日だった事故も少なくなったためとにかく軽視されがちな分野である。しかしながら我々の生命と健康を維持するためには良質の食糧の確保はその基本であり、現在わが国が世界の最長寿国となっているのは食品衛生の向上が大きく寄与していることを見逃してはならないだろう。

現在わが国の食糧の自給率はカロリーベースで約45%である。外国からの輸入依存率はこのままでゆけばさらに上がるであろう。食品の安全性を考えると、もはや自国だけの問題ではなく国際的視野の中でとらえる必要があろう。本特集が、公衆衛生に携わる専門家にさまざまな立場から食品の安全性について考えていただく資料となれば幸いである。

（丸山 務）